

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2021年12月3日朝刊



「平和の塔」にともる広島原爆の「残り火」 11月、福岡県八女市

福岡県八女市星野村にある「平和の塔」でもされ続けている広島原爆の「残り火」を、真珠湾攻撃があった米ハワイに建設予定のモニュメントに分火する計画が進められていることが2日、分かった。広島市の「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんの遺族が発案し、民間で寄付を募り2022年夏に火を運ぶ予定。真

福岡 平和の塔 原爆「残り火」ハワイへ

禎子さんは広島で被爆し、12歳だった55年に白血病で亡くなった。回復を願い病床で鶴を折り続けた悲話在全国に知られるようになり、平和記念公園に58年、「原爆の子の像」が建てられた。禎子さんの兄で被爆者の雅弘さん(80)は福岡県那珂川市、おいの祐滋さん(51)は東京都中野区。禎子さんの人生を通じて、命の大切さを訴える活動を国内外で行っている。

「恨みの火」として吹き消し、もう一つを「平和の火」としてともす。「残り火は憎悪の象徴であり、平和の象徴でもある」と祐滋さん。モニュメントの完成式典にはハワイと日本の子どもたちを招待することも計画している。祐滋さんは「生きてさえいればいつでも再出発できるんだということ、未来を生きる子どもたちに伝えたい」と決意を語った。

真珠湾攻撃80年 建設予定の記念碑に

真珠湾攻撃から8日で80年。遺族は「敵同士だった日米が憎しみを乗り越えた証にしたい」と語る。平和の塔の火は、原爆投下後の広島でくすぶる火を、福岡県星野村(現八女市)出身の山本達雄さん(84)が復讐の際に懐炉へ移して持ち帰ったのが始まり。自宅でもし続け、1968年から平和の塔で管理されて

続けてきた。約3年前、祐滋さんは平和の塔に残り火があることを知った。折り鶴に加え、この火がハワイにともされれば日米の融和がさらに進むと考え、分火を思い付いたという。

祐滋さんによると、モニュメントはクラウドファンディングなどで寄付を募り、22年夏にも真珠湾とその周辺に建設される予定。残

①広島原爆の「残り火」が福岡県でもされ続けているいきさつが分かるところに線を引きなさい。

②この「残り火」をハワイに建設予定のモニュメントに分火しようとしている遺族の願いは何か。

(例) 敵同士だった日米が憎しみを乗り越えた証にしたい。
(折り鶴に加え、)この火がハワイにともされれば日米の融和がさらに進む。など

③この「残り火」はハワイで2つに分けた後、どのようにする計画か。

(例) 一つを「恨みの火」として吹き消し、もう一つを「平和の火」としてともす。

④「分火」を通して、遺族が子どもたちに伝えたいことは何か。30字以内で書きなさい(句読点を含む)。

(例)	生	き	て	さ	え	い	れ	ば	い	つ	で	も	再	出	発
	で	き	る	ん	だ	と	い	う	こ	と	。				

年 組 名前